

**第17回男子ジュニアアジア選手権
戦況連絡票**

開催日	7月24日（日）				
試合	決勝				
チーム名	スコア				チーム名
日本	24	12	前半	7	20
		12	後半	13	

No.	名前	得点	戦況
1	今井 寛人	0	まずは日本ボール。速いパス回しから、スピードスター・藤坂(日本体育大学)の切れ味鋭いステップシュートで先制。バーレーンは、NO.14の連打で応戦する。日本は大竹(日本体育大学)、藤坂と続き、前半10分を4-2と先行、主導権を握る。そして藤坂のブレイクスルーに、悪質な反則でバーレーンNO.77がレッドカード。日本は絶好のチャンスを迎える…。突き放したい所だが、ミスやバーレーンの好DFの前に追加点が止まってしまう。会場はバーレーンGKの好守の度に盛り上がり、地鳴りの様な声援が、日本にプレッシャーを与える。ミスからの速攻を許し4-3。
2	大竹 徹大	3	リードの縮まったこの苦しい時間を日本セブンは全員で守り抜く。DFリーダーの細田(福岡大学)が全体を指揮して意思を統一。サイズと機動力のある北川(明治大学)が、闘争心剥き出して戦いに挑む。
3	高橋 颯汰	0	2枚目DFの羽瀨(関西大学)はベンチプレスで160キロをあげるフィジカルを武器に、相手エースの攻撃を跳ね返し、サイドの中島(中部大学)は積極果敢にDF参加し、数的不利でも攻撃の芽を摘んでいく。そしてDF陣のまさに『日本の盾』となつての奮戦に、GK陣が最高の集中力を発揮する。
4	藤坂 尚輝	8	まずはこの試合が今大会2試合目の出場となる松下(国士舘大学)。予選リーグでのバーレーン戦、準決勝でのクウェート戦とベンチアウトし悔し涙を流した男は、シュートセーブの度に『魂』の雄叫びをあげる。
5	泉本 心	4	相手ペナルティスローのピンチには、キャプテン・今井(大阪体育大学)が大きな身体を武器に、前半だけで2本をキープ。
7	荒瀬 廉	3	その間にバックス陣の泉本(中央大学)大竹が打ち込めば、左サイドの中島が苦しいシュートをねじ込め、右サイドの荒瀬(大阪体育大学)は技ありシュートを決める。
8	羽瀨 晴一郎	0	前半は12-7、まさに攻守一体となった会心のゲームで折り返す。
9	大浦 和真	0	後半開始。
10	中島 遼也	1	バーレーンの猛攻から始まる。しつこくブレイクスルーを狙われ、大型ポストにボールを集める。日本セブン必死のDFもペナルティを取られてしまう。
12	大山 翔伍	0	後半開始5分、NO.10のシュートでついに12-12の同点となる。
13	細田 啓輔	1	この停滞したOF陣に新たな流れを創り出したのが、この試合で初めてピボットにコンバートされた伊禮(中央大学)である。最初のボールタッチで、バーレーンDFの隙を逃さず中央を突破し得点。再び13-12とリードを保つ。続いて相手ミスを速攻に繋げ、細田が走り込み14-12。再び主導権を握るも、サイドで返されて14-13。右バックにポジションチェンジした荒瀬のミドルで15-13。10分、何とか離そうとする日本セブンではあるが、ペナルティを決められて15-14と再び1点差。12分、巨漢ポストに沈められ遂に15-15の同点となる。会場はバーレーンの追撃に観客総立ちの最高潮に。
15	北川 雄聖	1	この逆境を打開したのが、またも伊禮。左バックから果敢に1対1を仕掛け、再び16-15とリードする。バーレーンもポストにボールを集め、ペナルティで16-16。両チーム、一歩も引かない攻防が続く。泉本のカットインで獲得したペナルティを荒瀬の技ありシュートで17-16。DFの間を突破され17-17で、再び同点。17分、泉本のステップシュートで先行するも、ミドルシュートを決められて18-18。19分、自ら得たペナルティを藤坂が冷静に決めて19-18。裏の攻撃をGK松下の好守から北川が走り20-18。勝負所で2点のリードに成功する。3点差にしたい日本セブンであるが、ボールカットから速攻に持ち込まれる…。この勝負のかかったラスト10分で、GK松下のキーピングが唸りをあげる。22~25分間のノーマークシュートを3連続セーブ！まさに守護神の活躍で日本は主導権を握る。26分、藤坂のステップシュートで21-18。日本セブンの全員守備の前に、バーレーンOFは攻め手を失う。27分、泉本が走り込み22-19。28分、ペナルティを返されるも、再び伊禮が飛び込んで23-20。勝利を確信した若き日本代表は、涙を流しながらプレー。
19	伊禮 颯雅	3	30分、キャプテン・今井がペナルティをシャットアウトし、日本代表が勝利した。
20	新井 駿佑	0	
21	井上 明	0	